

授業概要

ことばの意味がわからなければ、辞書を引けばよいと思うだろうが、実際、日常で使われていることばの意味は、その使い手の意図、文脈や状況によって、辞書に掲載されている文字通りの意味とは「ずれ」が生じていることがよくある。例えば、「ジュリエットは太陽だ。」という表現の「太陽」は、天体の太陽そのものを指していない。あるいは、「時計を持ってる？」という言葉は、文字通り解釈すれば、ただ時計の所持の有無を尋ねていることになるが、実際は、時間を教えてもらえるように相手に依頼している表現である。

この講義では、このようなことばの意味についての学問分野である意味論と語用論についての講義をし、その分野の導入的な知識の習得を目指す。

授業計画

第 1 回	イントロダクション：授業の概要、成績の評価方法などの説明
第 2 回	ことばと意味
第 3 回	語彙の中の意味関係：同義性、反意性、タクソノミーと基本レベル
第 4 回	語彙の中の意味関係：場の理論、構成性の原理とゲシュタルト
第 5 回	文法と意味：「文法」と「意味」のレベル
第 6 回	文法と意味：構文と意味
第 7 回	意味とコンテキスト：伝えられる意味
第 8 回	意味とコンテキスト：メタファー
第 9 回	意味の変化：意味の変化の原因と仕組み
第 10 回	意味の変化：文法化、意味の変化の方向性
第 11 回	意味の習得
第 12 回	意味の普遍性と相対性：「親族用語」と「色彩用語」など
第 13 回	意味の普遍性と相対性：英語と日本語の対照例
第 14 回	意味と文学
第 15 回	講義の総括
第 16 回	定期試験（筆記試験）

到達目標

英語学の意味論と語用論の基礎的な知識を身につけ、ことばを意味の側面から捉えることができる。

履修上の注意

この講義の目的は英語の読み書きではなく、ことばの意味について学ぶことにあるため、英語が苦手な方も受講できる。ことばの意味に興味がある方ならば受講を歓迎する。テキスト、プリント等は日本語で書かれたものを使用し、英語には和訳を添えることにする。

予習・復習

配布するプリントには單元ごとに理解度をはかるチェック・ポイントを載せている。これを参考に毎回授業前にテキストを読んで授業の内容をあらかじめ理解していただきたい。授業後は、もう一度テキストを読んで、チェック・ポイントを解いて授業の復習をすること。新しい概念、専門用語がよく出てくるため、それらを理解し、吸収するために予習・復習は毎回行うこと。

評価方法

課題（40%）、定期試験（60%）で評価する。定期試験の問題は、授業中に受講者に配布するプリントにあらかじめ提示した問題の中から出題する。詳細については初回の授業で説明する。

テキスト

- ・教科書名：『英語の意味』（テイクオフ英語学シリーズ3）
- ・著者名：池上嘉彦（編）、池上嘉彦、米山三明、他
- ・出版社名：大修館書店
- ・出版年（ISBN）：1996年（978-4-469-14137-5）